

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者 稲葉勝利

1. 概要

歩行名称にはブロック名（会則に記載）と概略歩行区間を記載する

歩行名称	東北西ブロック 2
歩行区間詳細	スタート地点:あつみ温泉駅
	ゴール地点:酒田海鮮市場前
実施期間	2022年4月11日(月)~4月13日(水)
全歩行距離	44.2km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー	稲葉 勝利	76	3	12期
2					

3. 歩行の概要

	月日	出発地 ~ 到着地	歩行距離	歩行参加者	備考
1	4/11	あつみ温泉駅~小波渡	10.7km	稲葉	
2	4/12	小波渡~湯野浜	14.5km	同上	
3	4/13	湯野浜~酒田 海鮮市場前	19.0km	同上	

4. 参加費(含む東北西ブロック4)

参加者延べ日数 1×4

参加費合計 400円

5. 費用概算(含む東北西ブロック4)

交通費(Web限定大人の休日パス東日本)使用	15,250円	
宿泊費(酒代含む)	18,277円	
昼食・水族館入場料 等	5,720円	合計 39,647円

6. 歩行の詳細

4月11日(月) 天気 晴

12:30 あつみ温泉駅→13:15 塩俵岩→14:23 堅苔沢→15:25 民宿こぼと荘

あつみ温泉駅はコロナで二年七か月振りの来訪であった。年間歩行回数を増し、元気なうち青森までの歩行を完了するつもりになって間もなく、コロナにより、自粛生活を余儀なくされ、運動不足による体重の増加や、体力低下で歩く自信を失っていた。そんな状況の下、第六次の感染者数が下降傾向を示し、三回目のワクチン接種が終わったこと、またちょうど4/11日~Web限定大人の休日パス(4日間有効)が発売された。このチャンスに運動不足解消と体力の程度を知るため、と

りあえず前回完了している酒田までを繋ごうと計画した。酒田までは3日間で終わるため、残り一日は象潟→金浦を計画書として提出した。

今回のコースには特筆するような観光地がない一方、庄内空港の敷地内等単調な道が多くあまり魅力的なコースとは言えないなか、街道筋に庚申塔が多く点在していることを知った。庚申塔には関心を持っていたため、庚申塔探訪を小目的に加え、単調な歩行に変化を持たせた。又今回は一人旅であったため、庚申塔の存在の可能性の高い、旧道優先でコースを選び、寄り道をいとわず寺や神社の訪問を行った。

歩行開始に当たって、たまたま郵便局の職員が郵便局の写真を撮影するために出てきたので、これ幸いとばかり、写真撮影を依頼し、歩行開始の儀式を完了。

歩行開始10分後、芭蕉の「出羽路最後の宿」の石碑が建っている。このコースは芭蕉の奥の細道でのコースでもある。

12:44 最初の庚申塔が町外れの小高いところに他の石碑とともに現れた。早速写真撮影。その後直ぐ海岸線に出て海岸線沿いに行く。

13:10 立岩。本日歩行の海岸線について、「曾良随行日記」には次の記載がある。「三瀬ヨリ温海へ三リ半。小波渡・大波渡・湯苔沢ノ辺ニ鬼かけ橋・立岩・色々ノ岩組景地有。」「色々ノ岩」の一つは玄武岩脈の一塊で、層状摂理とこれに直角に発達した柱状節理が交互に交差してできた塩俵岩があるが、それを指しているのであろう。ここには芭蕉の「あつみ山や吹浦かけて夕涼み」の句の石碑が建っている。



あつみ温泉駅より歩行開始



「立石」がいくつか現れる。



塩俵岩

寒村の鈴村では海岸道路から離れ、庚申塔を求めて旧道に行く。海岸沿いの山には落葉樹が多くまだ青葉も出ていないため、殺風景であり、緑といえば浜ウドの葉が目立つ程度である。堅苔沢の山には風車が建立されている。天気も良く海の彼方には粟島も遠望される。

波渡崎を回ると前方が開き、湾の向こうに本日の宿泊地も見えるようになった。波渡崎沖合800mには留棹庵島が見える。「留棹庵の本尊である千手千眼観世音菩薩は、留棹庵島の海底より美妙の音楽のうちに光明を放って浮かび上がったもので、身の丈七寸ばかりの座像である」と伝わっているそうである。

小波渡の中心部に庚申塔とともに、今でも湧出し、生活に使用されている「オミジャ」がある。文治五年奥州信雄郡の領主佐藤基晴は源之義経を慕って北陸道を訪ね歩いた。その道次三瀬に至り、義経の死を知りこの地に留まった。同年七月病により死期の迫ったのを知った彼は「氣比の大神の神命により一族はこの西山の外浜に赴き開村せよ。その地には山を穿ち通した霊泉が湧出している故、これを守り、魚漁をなさば、子孫繁栄間違いなし」と遺命を残した。この泉が開村由緒の「オミジャ」であり、村人の変わらぬ崇敬を集めていると、説明が表示されていた。

オミジャに老婆が二人いた。宿泊予定の民宿は5分程度で行けそうで、時間的余裕もあることから老婆に話しかけた。老婆は色々説明してくれるが、相手の方言が全く理解できず、早々話を打ち切ってしまった。せつかく話をしてくれそうであったのに申し訳なかった。

今晚の宿はあつみ温泉から約1.8km行った米子漁港以北で最初にあり、旅行代理店を介さずここを選定した。予約後数日してから「風呂は温泉ではないがよろしいでしょうか?」と、わざわざ電話を頂いた。この近辺には他に宿はなく、選択の余地なく、「全く問題ない」と伝えていた。こんなやり取りがあったため良い印象をもって宿にお世話になった。事前の予想通り大変親切で気を使ってくれた民宿で、たまたま若いお嫁さんが私の住む横須賀市に隣接する横浜の金沢区出

身であったことから、話はずんだ。日本海側の海岸線に多く見られ、明日葉に似た地元で「カツキ」と呼ばれていた野草が「浜のウド」であることも彼女が調べてくれて知った。

1泊2食付き、税込み7,300円で、添付写真のように山海の食材のフルコースといった内容であった。宿の前の湾内では船から箱眼鏡を使用し、天然ワカメの採取を行っていたが、その際一緒に獲れたものだろうか。渡蟹が添えられていた。その後食後のケーキまで出されたのには驚いた。窓からの夕日が眩しい。



波渡崎より北を望む



オミジャ



こぼと荘の夕食

4月12日(火) 天気 晴れ

民宿 8:10→9:25 展望所(由良漁港南側) →11:00 油戸→11:47 加茂水族館 13:00→14:25 温泉民宿しらはま屋(湯野浜温泉)

古来、羽州浜街道は小波渡駅から笠取峠越えをして三瀬に向かっていた。笠取峠の名は日本海から吹きあげる強風で、旅人がかまびつている笠が撮られることから名づけられたといわれ、日本海を眼下に風光明媚なところであり、宿のおかみさんも散歩でよく行くという。登り口は宿から戻ったところであり、庚申塔もないことから、今回は海岸線の七号線を進み、途中岬の神社に寄り道をしてから峠越えの下山口を確認する。その後7号線に戻る。

ここから由良漁港までは海岸線には道はなく、山間部に行くようになる。間もなく山麓に多くの石碑が乱立している。国指定天然記念物「三瀬氣比神社社叢」である。ここから約1kmの間、カタクリ、紫色系や白色系のキクザキイチゲ、エゾイエンゴグサの花等の群生は、予想もしなかったため、うれしさも倍増で、写真を撮りまくる。



立岩の岬から来た道を振り返る



三瀬側の笠取峠登り口



三瀬氣比神社社叢

由良漁港南の展望所からは眼下にこれから向かう油戸漁港の方面が望めた。由良海岸の白山島には白山神社が祀られ、全長150mの白山橋で繋がれている。

橋の手前に、時代を反映してマスクをした八乙女の像と錨が置かれている。この地は崇峻天皇の王子である蜂子皇子の上陸の地とされている。崇峻天皇が蘇我馬子に暗殺され、聖徳太子の勧めにより皇子は都を脱出し、海路この地上陸した。皇子が絶景に見とれていると八人の乙女が岩の上で舞っているのを見つける。すると二人の姉妹、恵姫と美鳳が皇子を招き入れた。その後、皇子は上陸した洞窟「権現穴」にこもって修業を重ねたと伝えています。八人の乙女が躍ったところを「八乙女浦」、現在の「由良」の名は皇子が船出した丹後国の由良にちなんで名づけられたといわれている。その後皇子は出羽三山を開山している。一方、錨は1978年、ここ由良の沖合で、世界で初めて波力発電が本格的に実験され

た際の錨の一種だという。

油戸漁港の先のトンネルを抜けると突然、遙か彼方の春霞の中、鳥海山が目に飛び込んできた。空と山の雪が解けた麓は同一色で区分ができず、残雪の部分だけが、空中に浮いているような光景は花の群落に続く今日二回目の予想外のイベントであった。正面に鳥海山を見ながらの昼食予定の加茂水族館までの歩行は足取りも軽くなり、快適であった。

水族館は世界一のクラゲ水族館というのが売りで、当然昼食はクラゲラーメンを食する。麺にもクラゲが練りこんであるというが、目に見えるのはイソギンチャクのような一切れのクラゲと多量のキクラゲ及びシロキクラゲ。クラゲ料理と言っても植物のキクラゲの料理のようである。どちらもコリコリという食感なので、その差は感じられない。

加茂水族館から今日の宿泊地の湯野浜温泉までは 4.5 km の距離であるので、昼食後ゆっくり水族館を見学し、時間をつぶす。湯野浜温泉街の入り口近くに六基の「庚申」文字が表記された庚申塔が祀られていた。これまでも小村毎に村の入り口付近に文字塔が祀られていたがまとめて六基もあったのは初めてである。

今日は第二火曜日だったため、湯野浜温泉の公衆浴場は休みであったが、予約したのがかけ流し温泉民宿であったので、温泉は十分堪能できた。湯野浜温泉は「日本の夕陽百選」にもなっていることから、水平線に沈む太陽を撮影するつもりが、部屋の窓から太陽が水平線に近くなってきたのが見えたので、慌てて海岸に飛び出たが、その時には沈んでしまっていた。残念。湯野浜温泉には高級な温泉宿も多くあるが宿泊したのは一泊 2 食付 6,597 円の民宿。それでもかけ流し温泉付きで、昨日ほどではないがカニの半身もついて、十分な料理であった。



由良漁港南の展望所からの景観



八乙女の像と錨



クラゲラーメン

4月13日(水) 天気 曇り一時雨

民宿 7:50→8:25 山形県養豚研究→8:42 庄内空港地下道→9:10 正常寺→9:40 あさり海水浴場→

10:20 赤川・袖浦橋→11:30 十里塚デイリーヤマザキ(昼食) 11:55→12:45 最上川→14:00 酒田駅→14:05 ホテルアルアー 16:15→17:50 酒田海鮮市場前

本日のコースは遊佐町吹浦から鶴岡市湯野浜まで延長 34 km 面積およそ七千 ha に及ぶ日本有数の大きさを誇る庄内砂丘に沿って進む。道路は今までのような海辺の岩礁地帯ではなく、約 300m 内陸寄りのクロマツの飛砂防備保安林の中を縦断しており、海は見えない。

天候も芳しくなく単調な道をひたすら歩行に集中して歩くしかないと考えていた。

宿から 5 分も歩くと道は東方の鶴岡に向かう 43 号線と今回行く 112 号線に分かれる。これ以降バスの運行はないと思っていたが、4 本/日 運行していた。異常があった場合利用可能と安心した。またこのバス停を探すのが歩行中の目標となった。砂防林の内陸寄り一面のビニールハウスが連なり、ほぼ無人地帯が続く。ビニールハウスでは米の苗作りや、その砂地の水はけの良さと昼夜の寒暖差を活かしたメロンの生産などを行っている。道路は庄内空港の滑走路を横切って北上する。

防砂林の中の直線道路で唯一の人里である浜中では、正常寺に寄り、庚申塔の写真を撮る。ここには県内一の大きさといわれる安産地藏大菩薩があり、古くは遠方より祈願成就のため多くの人が訪れたという。



防砂林の中を行く



防砂林の中のビニールハウス



庄内空港地下道

コンクリートの道路も飽き、海岸線を歩行しようと海まで出た。砂浜は当然ながら歩きにくく、早々に防砂林との境界線の道を行く。海側には砂丘が広がり、砂地ではあるが砂浜に比べれば歩きやすく気持ちよく進む。街道にあるものほど大きくない松の葉が赤くなっているのが目につく。塩害により枯れ始めているのだろうか。道は赤川に近づくに連れ無くなっていき、最後は藪こぎを強いられた。赤川との出会いは砂丘となっていて、赤川を渡るため、112号線に戻る。

昔、赤川は最上川に合流していたが、洪水時、合流水により、甚大な被害を受けたため、大正10年から六年かけ日本海にそそぐよう変更工事を行ったという。赤川に架かる袖浦橋の下では太公望がサクラマス釣りをしていた。

十里塚は112号線が酒田方面に右折する少し手前にある村落で酒田までのバスの便も多く、人家も多くなる。当然庚申塔もあるだろうと旧道と思われる道を通って大美和神社に寄るが発見できなかった。今日の行程で最初のコンビニであったデイリーヤマザキでピザ、サラダを購入。雨が降り始めたが、場所もなくコンビニの軒下で昼食をとる。

雨脚も強くなってきたので、短時間で食べ終え歩きは始めるが、最上川を過ぎたら弱くなってきた。さすが東北の大河の最上川。川にかかる出羽大橋は長さ1.2kmもある。最上川を越えればホテルまでは2.2km。時間は13時前。あまりにも早すぎるので、豪商本間家等の観光地や神社仏閣の庚申塔探訪をしながらホテルに向かった。それでもホテルにはチェックイン開始時間(14:30)前に到着し、フロントで空くの待たされた。和田さん、尾崎さんが歩行完了した場所に7年後に合流でき、ほっとした。夕食は和田さんたちが朝食を摂った海鮮市場の食堂と決めていた。休憩後、光丘神社、下日枝神社、海向寺、日和山公園経由で18:00頃食堂に到着するよう16:15にホテルを出発。多くの庚申塔が点在し、思った以上に時間を要したが、18時少し間に到着。しかし、今日は17:30に店を閉めたという。事前にネットには、市場は休日であるが食堂は19:00まで通常通りと出ていたのがっかり。材料が早く無くなったという。やむなくコンビニで食料、アルコールを買い出し、わびしくホテルの部屋で夕食。計画では翌日は象潟駅から金浦駅までの歩行であったが、体調も良いために目的地を次の仁賀保駅まで延長した。

帰路、仁賀保駅は特急が停車せず、乗り継ぎに時間が掛かるため、先に仁賀保駅まで電車で行き、そこから象潟に戻るコースに変更した。また、酒田駅で途中下車し、海鮮市場の食堂での料理にリベンジすることにした。



防砂林との境界の道



赤川での太公望



日和山公園展望台近くの庚申塔